

本校の社会の入試で必ず出題される4択問題です。4択問題には、大きく分けて二つのパターンがあります。単に選択肢の正誤を判断すればよい問題と、選択肢の正誤を判断した上で、問われている条件に合うものを選ぶ必要のある問題です。今回扱う問題は、後者のパターンです。こちらの方が難解だと思いますが、本校ではこのパターンが少なくありません。では、問題を見てみましょう。

**ア**は『新古今和歌集』とあるので、鎌倉時代の文化の説明です。これは後鳥羽上皇の命令によって編さんされたものです。なお、素朴という特色は、防人などの民衆の和歌も含まれている日本最古の和歌集『万葉集』のものなので、選択肢の内容は少し事実と異なります。**イ**の内容は正しいですが、これは江戸時代（特に後期）の文化の説明です。役者を描いた浮世絵の作者として、東洲斎写楽などが思い浮かぶはずですが、**ウ**の内容も正しいですが、これは安土・桃山時代の文化の説明です。朝鮮侵略で日本に連行された朝鮮の職人によって、これらの陶磁器がさかんに作られました。**エ**は内容も正しく、室町時代の文化を説明したものです。足利義満の保護を受けた観阿弥・世阿弥が能を大成させたことも知識として知っているはずですが、したがって、正解は「**エ**」となります。

このように、歴史分野の4択問題を解くときは、それぞれの選択肢の正誤を検討することだけでなく、それらがどの時代の説明なのか判断することが求められる場合があります。そのために、できごとや年代などをただ「点」として暗記するのではなく、それぞれのできごとがどのような背景のなかで起きたことなのか、前後のできごととどのような関係があるのか、つまり1本の「線」のような歴史の流れを意識して理解することを日頃から心がけて下さい。自分で「文化」や「外交」などのテーマを決めて、時代ごとの特徴をまとめることもよい勉強になるでしょう。

[平成 25 年度出題]

**正解**

**エ**